



願

50年 9 月30 B

5-10-304

(Ith 2 4)

(19) 日本国特許庁

## **公開特許公報**

①特開昭 52-42908

43公開日 昭 52. (1977) 4.4

②特願昭 \$0-11716\$

昭40. (1974) 9.30 22出願日

未請求

(全9頁)

庁内整理番号

(1192+ X

7152 35

出願人

プロウオウ キョウ・シ 東京都中央区所修三丁目三帝和

**张式会社** 

都港区赤坂1丁目9番15号

52日本分類 39 C/

60 Int. C12 DOIF 11/04 DOIF 11/08 識別 記号

LABLE COPY

1. 発明の名称

2. 将許請求の範囲

紙力増強剤を含有する磁紙匹を抄合せて砂合セ 紙を製造するに<header-cell>し、アニオン性ボガ増強納営有 優紙返とカチオン在戦力増強剝含有微鉄匹とを砂 甘せるととを存放とする妙合せ紙の製法。

3. 発明の詳細な説明

本発明はたとえば板紙類の仰きが合せ靴の製法 C関する。更化詳しくは、私力増強剤を含有する 優紙辿を沙合せて沙合せ紙を製造する化験し、ア ニオン狂私力増強剤含有侵私匹とカテオン住私力 増強剤含有湿紙匹とを砂合せることにより、砂合 せ紙を形成する単位紙層間の剝離強度が顕著に改

告された砂台せ紙を提供できる砂台せ紙の製法に 例する。

少合せ紙は2周以上よりなる単紙匹を抄合わせ て会造される紙で、併進上その単位紙層询は機能 のからみ合いが不充分且つ不均一となりこの部分 で料がれやすいという火点を有している。

との欠点は、例えば、砂合せ紙を印刷するとき に、インギのタンク化よンて単位抵着側の部分的 な判職状態を抬来して、印刷面の不均一現象であ る"火ぶくれ"を生じたり、改収製画加工のとき 化折り回ける深、機械によつてうける剣動力によ り" ながれ"を生じて袋品の短度を渡りというよ りな欠陥を生じるために、乗界ではとの技術的課 風の解決化大きな関心を持つているが、未だ充分! 横足し母る解決はなされていない。

上記技術的課題の解決のための従来提案は、砂合せに際して、単位優低匹の抄合わせ面の片面もしくは両面に要強剤を施したのち砂合わせ、形成された砂合わせはを圧着、加熱乾燥して層間剝離強度を向上させようという技術的必須に基いている。斯かる設備別としては、疲粉の例化密液、酸粉をしくなその効果の水性懸備液、ボリアクリルで、ボリアクリルで、たとえば、特別的ルフミド水溶液などのなかに、たとえば、特別的エステル、メタクリル酸エステル、ステレン、フリロニトリル、域化ビニル、ブタジエン、クロロブレンなどの乳化度合もしくは悪傷重なアクリンの乳化度合もしくは悪傷重合がでしている重合体もしくは共重合体のエマルジョンもしくはブテックスが、又、特勝昭48-10305

特別 昭52-42908(2)
号化は、ポリアクリルアミドのカテオン変性物やエポキシ化ポリアミドポリアミンとアクリルアミドとのグラフト共富合体の如き水粘性熱硬化性ガテオン系側脂と顔粉との分散なが、更に又、特朗 昭48-10306号にはエポキシ化ポリアミド ポリアミン又はポリアクリルアミドのホフマン分 帯南か、夫々、授業されている。

これら使来要案において共通するのは、上述の 通り、単位提取匹の砂合わせ面の片面もしくは両 国にこれら影離剤を施して砂合わせるという技術 的思想である。更に、このような使来伝において は、振着剤の減ら操作及び設置が爆雑な扱かに砂 合せに厳してこれら装剤剤が砂合せ面から単位温 紙匹内部へ吸引されて移行するのを防止しなけれ は充分な層間剝離強度の同上は認めないため、質

雑旦つ注意保い無作が畏来される不利益もある。

本発明省等は抄合せ紙製造における層間別離盤 度の改善について研究の翻条、上配のようを従来 法の技術的息母とは全く典つて、アニオン性似力 増強利告有機紙匹とカテオン性似力増強利苦有選 減匹を抄合わせること、疾言すれば、少合わせ面 においてイオン的に典なる紙力増強利が緩削する ように組織匹を抄合わせることによつて、容易な 操作で、顕者に安善された層間判離強度の向上が 建成できることを発見した。

との使れた網雕領疑问上の埋由は明らかではないが、従来提案の技術息融とは全く異なり、砂合 わせ時に、砂合わせ界面において、イオン的に異なる私力増照剤が設限し、互いに作用し合つて、 その場に於て、コロイド概果体が主として欧界面 付近で形成されるとと、及びこのその場で形成されるコロイド粒子の選切なサイズ及びコロイド酸 巣体の外面無距離性の潤色込み作用などが好都合 に併起することが、主な原因となつているものと 雅朗している。勿論、本発明はこのような機構推 側によつて限定されるものではなく、彼に示す比 数例の網果と対比して容易に理解できるように、 全く予紹外の数替が達成される。

従つて、本発射の目的は以着された刺離療度を 南する抄合せ紙の収着された製法を提供する化ある。

本発明方法においては、砂合わされる提紙匹の

次いて譲取アルミニウムなどの定剤剤で批料に定 者させる無機がとくに好ましい。遅むならば、砂

.合わせ風前に例えばスプレイなどの手段で抄合わ

特朗 昭52-42908 (3)

七外面に脂すこともできる。

本発明方法においては、上記のようにして形成されたアニオン性紙力増強剤含有湿紙匹とを砂合わせる。 2 階を避える多脂を砂合わせる場合にな、必ずしも、アニオン性紙力増強剤含有虚紙匹を双チオン性紙力増短剤含有虚紙匹を双チオン性紙力増短剤含有虚紙匹とを交互に砂合わせる必要はなく、これらイオン的に異なるタイプの紙力増強剤含有虚紙の一方の複数層と他方の一層とを交互に砂合わせたり、両方の複数層を交互に砂合わせたり、両方の複数層を交互に砂合わせたりすることができる。更に又、最も耐廉削剝離強度の要求される部位についてのター層ずつを交

原料は何質でも異質であつても蓬支えない。たと えば、皮ボール改散パルブからの遅紙匹同志の如 き間質原質からの逆紙匹の組み合わせでもよいし、 取は又、晒クラフトパルブからの連紙匹と版ホー ル故紙パルブからの遊紙匹との組み合わせや、ア スペスト遊紙匹と炭ボール故紙パルブからの湿紙 止との組み合わせ、等のように異質原質からの虚 私些の組み合わせでもよい。

提載匹化成力を設制を言名せしめるのは、砂合 わせ前の仕様の工程で行うととができる。好まし くは機械匹形成中もしくは形成前の維料スラリー 化言有せしめるように森油するのが好ましい。 屋 航近ル反削む、例えばビーターもしくはチェスト 内等のように、バルブ銀機が大重の水甲に服備さ れている状態の適当ケ所で、瓜力増強網を添加し

互に抄合わせるようにするとともできる。これらは、抄合わされる後紙匹の種類、厚み、砂合せ紙の使用目的、品質試力増強剤の種類及び組み合わせなどにもよつて、適当に必択して行うことができる。

本発明方法で用いるアニオン性紙力増強剤及び カチオン性紙刀増強剤として公知の種々の紙刀増 ・強剤を選択利用できる。更に、アニオン性紙力増 強剤含有選紙はイオン的にアニオン性の紙力増強 剤が主要性を占めるものであればよく、カチオン 性での他の紙刀増強剤の動のを含有して差更え ない。間様にカチオン性地力増強剤は有逆紙についても動水量のアニオン性での個の私力増強剤の 助次量を含することができる。いづれにせよ、 か私に除して昇酸において、イオン的に異なる紙 力場強利が作用し合つて、所選程能に耐層調制職 強度を増大し待るものであればよい。

本発明で利用するアニオン性紙力増強剤としては、組成構造中化、たとえばカルボキシル新やスルホン塞のようなアニオン性が力増強剤をあげることができる。このようなアニオン性 批力増強剤の例としては、ボリアクリルアミド、ボリメテルメタアクリルアミドの部分加水分解剤、それ等心スルホメナル化物;アクリルアミド、ジテルメタアクリルアミド、ジアセトンアクリルアミド等のアクリルアミド素モノマーと、アクリル酸、メテルメタアクリル酸、無水マレイン酸、イタコン酸等の遺仕化・定和酸の単一又はそれ勢の混合モノマーとの共富合体類;かよびアクリルアミド系モノ

特別 昭52-42908公

マーとアクリルニトリル、メタアクリルニトリル、アクリル版エステル瘤と削別庭台任不助和版より 取る共進台 中類などをあげることかできる。これ ちの中で、こく K 好ましいアニオン性 飲力 増加 水 物 ( ニボリアクリルアミド・アクリル 酸塩・アクリル では、ボリアクリルアミド・アクリル 酸塩・アクリル では、 カナオン性 本力 増減 別をと としては、 組成 書 塩 中に、 たとえば アミン 社 の が とし と か で きる。 と のような アナオン 性 承 力 増 漫 州 の 例 と し で は、 カナオン 性 承 オン 性 承 カ か で と か で さ 、 カナオン 変性 尿 ※ ・ ホルマリン 系 例 版 、 ポリアミド・ビニルアミン共 童 合体 4 微 化変性 複 版、 ルアミド・ビニルアミン共 童 合体 4 微 化変性 複 版 、 ルアミド・ビニルアミン共 童 合体 4 微 化変性 複 版 、

ポリアクリルアミドもしくはこれを主放分とする 共重合体のマンニッと変性側面及びこれら共直台 体のホフマン分解物、ポリエテレンイミン、カチ オン化療粉などをあげることかできる。これらの 中で、とくに好ましいカチオン性紙力増強制とし では、ポリアクリルアミド又はポリアクリルアミ ドーアクリル酸-アクリルニトリル共童台の台マ ンニッと重要性体およびポリアクリルアミド、ビ 「学朋際 ニルアミン共直台体 4 数化変性体、ポリアミドポ リアミン4 数化体を挙げることが出来る。

本発明方法の実施に顧して、上記例示の如きアニオン性机力視強州を抄合せるべき故匹に含有せ しめる場合に、促逐アルミニウムの如き定電剤を 用いて、これら紙力増強剤を足倉させるが、この 歓定資料の並は、9月4~6程度の条件を補足す

る量で用いるのがよく、p H 5 ~ 6 程度がとくに、 好ましい。アニオン性紙力増強剤を甘有せしめる 量は適当に変更でき、たとえば、パルプ絶較重量 に基づいて、紙力増強剤の0.2 ~ 約2 %程度(図 形分として)、一個好ましくは約0.3 ~ 約0.8 程 度である。又、上記地水のの重を力チオン性和力増 増制を砂合せるべき減少に含有せしめる場合には 定着剤を利用する必要はなない。切論、用いても差 支えない。たとえば、カチオン化率の小さい拡力 明急剤を用いる場合、一例をあげると、ボリアク リルアミドのマンニッと変性体を用いる場合、ア ミド毒に対する変性率が10モル%以下の リルカチオン化率が10モル%以下の リカナオン化率がからい変性物脂の脈には、 別えばp H 約5 ~ 6 程度となる量で硫酸アルミニ ウムの血き定慮剤を利用することが好ましい。カ チオン性紙力増強剤を含有せしめる意だついては、 上記アニオン在紙力増強剤が関してのべたと同僚 な誰を物ができる。

間、砂合せるべきアニオン任私力増強剤含有扱 私匹とのテオン性私力増強剤含有機減匹とが、天 々、含有する私力増強剤の重削合は適当化変更で きるが、好ましくは2:8~8:2 (パルブ総成 電量化基ついた私力増強剤の固形分としての含有 納合)と一度好ましくは4:6~6:4 極度であ

次化、契配例により、本発明万法実施の収例を がす。同、以下の実施例に用いた紅力増強的は下 次1の速りである。

### [ アニオン住私力増強剤

Æ	記 号	名
1	P-AAM-AAc-No	ポリアクリルアミドーアクリル酸塩(モポリアクリルアミド加水物)
2	P - A A M - A A C	ポリアクリルアミド - アクリル酸共産合体
3	P-AAM-AN-AAc-Na	ポリアクリルアミド - アクリルニトリル - アクリル酸塩共重合体
•	P - AAM - MMA-MMAcNG	ポリアクリルアミド - メチルメタアクリル酸エステル - メチルメタアク
		リルは塩共産合体
5	P-AAM-MMAC	ポリアクリルアミド メチルメタアクリル微共産合体
6	P-AAM-MoNa	ポリアクリルアミド-マレイン酸塩共富合体
7	8 1 - C 0 0 H	朝 农 化比 原 和 和
	1 2 3 4 5 5 6	1  P - AAM - AA c - N c 2  P - AAM - AA C 3  P - AAM - AN - AA C - N c 4  P - AAM - MMA - MMA c N c 5  P - AAM - M d A c 6  P - AAM - M c N c

### Ⅱ カテオン性紙力増強制

	4	記 号	名
	1	P-AAM-ManB	ポリアクリルアミド-マンニツヒペース共重合体
. *	2	P-AAM AN + AA cN a -M an B	ポリアクリルアミド - アクリロニトリル - アクリル酸塩マンニンヒペース共富合体
	3	P-AAM-HoffB	ポリアクリルアミド・ホフマンペース共皇合体
1	4	P - AAM - V AMN - 4	ポリアクリルアミド・ヴイニルアミン4級塩共産合体
	5	P - AM D - P AM N - 4	ポリアミド・ポリアミン4敵塩融合体
	6	'P-ETIMN	ポリエチレンイミン
	7	. C - %7 0 4	カチオン化尿素樹脂

突施例1~16及び比較例1~6

関様にして 0.5%の 回形分に相当する各カチオカ
クン性紙増強剤を 影加したものを準備しスラリータ ガを紙像アルミニワムで 5.5 にした。

別にカテオン性紙力剤のみで哌酸アルミニウム を加えないものと健康アルミニウムのみで紙力増 強剤を誘加していない対照 ( プランク ) を準備し

せ及び翻定薪祭を下表 2、3に示す。 いずれも本分別にもとづく場合顕著な剝離強度を 示すことがわかる。 ٦.

これ等のスタリーを手抄きタッピマシンで砂紙 し試験私を調整した。その際知めアニオン性紙力 噌放剤を加えたものを通常の適り砂紙したあとこ れを心けておきカテオン性 飲力 増強剤を加えたも のを砂紅した好(即ち相互には超紙匹である)、 之に重ねて上下に各校の口紙をおいて金属ブレー トにはさみ、6 知/ 間で5 分ブレスして搾水した の5105 で4分間 刷版ドライヤーで乾燥した。 砂合いせ前の各種紙は米坪量を608 / ポに数定 した。

この抄合せ政験紙を一昼夜20℃60KHの中 に放証して調返したのち JIS の品質 境格にもと づき 専問 料能強度を 御定した。

アニオン性、およびカチオン性祇力州の組み合

表 2

Æ	•	組合せ	米坪・ケノゼ	制權強度 9 / cm	劝 彔 比
		1胎 2胎	<del> </del>		
对城	<b>97</b> ·	フランク	1 1 7	6. 1	100
比 軟	<b>F</b> V 1	I-1×I-1	118	8. 3	136
	2	I - 3 × I - 3	118	8.9	146
~	3	1-1×1-1	1 1 7	1 5.9	261
	4 -	1 - 4 × 11 - 4	1 1 5	1 6. 1	264
突 施	<b>9</b> 1	I - 3 × 1 - 1	1 1 6	2 1.5	3 5 8
	2	* 2	116	2 4.4	400
•	3	3	1 1 5	2 8.5	468
	4	• 4	1 1 5	2 2 3	366
	5	5	. 117	2 5.1	412
	. 6	6	116	2 0.7	3 4 0
	7	7	117	1 9.0	310
		1 - 3 × 11 - 2	118	2 2 6	880
	9	" X I - 4	. 118	2 1.4	8 5 0

※ カナオン性紙力増強剤含有種紙匹の調整に厳して、 定種剤(健康アルミニウム)を使用せず。

**2€** 3

	Æ			4位	合 2	建	米坪多/帽	利維強変 9 / cm	<b>劝</b>	**************************************	此
対	Ħ	RR.	693	7 5	, , ,	,	1 3 9	6. 8	1	0 0	
此	权	<b>9</b> 13	5	1 - 3	× I	- 3	1 3 7	9. 6	1	4 1	
比	軟	<b>19</b> g	6	ē - 3	×A	- 3	1 3 7	1 3.9	2	0 4	
・実	<b>76</b>	158	10	I - 1	× I	- 3	1 3 8	2 7. 9	4	1 0	•
•	•		11	2		•	1 4 1	2 5. 2	3	7 0	
	~		1 2	3		•	1 4 0	a 3. a	4	9 0	
	-		1 3	4			1 3 8	2 3. 2	3	4 1	
	-		1 4	5		<b>.</b> .	1 3 7	2 4.5	а	6 0	
			1 5	. 6		•	1 3 7	2 4.8	3	6 5	
			16	7	,		138	2 0.4	3	0 0	

特別 昭52-42908(8)

## 寒 始 例 17~23

次に沙合わせる紙の模類をかえて実施例1と同様の試験を行つた結果を下扱4に示す。

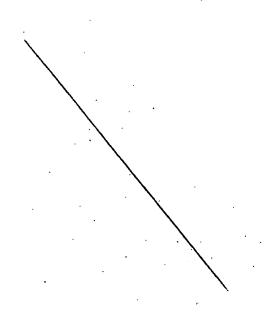


表 4

4	か合せの組合せ	新力增強用組合せ	剝離強度 タノロ	効果 比
	1 階 2 階	1/船 2 階	·	(プランクを100として
対 · 例	歳ポール故戦パルプ× 段ポール改紙パルブ	1 ブランク .	. 8. 0	100
突症例17		1 - 3 × 1 - 3	3 2. 8	4 1 0
对机物	晒タラフトバルブ×投ポール政紙パルブ	<b>ブランタ</b>	7. 2	100
実施例18.		1 - 3 × 1 - 3	2 3. 0	3 2 0
対無例	未他クラフトパルプ×皮ボール故紙パルブ	<b>プラン</b> ク	7. 8	1 0 0
<b>米苑例19</b>	•	1-3×1-3	2 3. 8	3 0 5
対照例	晒クラフトパルプ×中任生候像ソーダパルブ	ブランク	6. 5	100
失期州20		1-3×1-3	2 8. 4	3 6 0
対解例	無-1 設ポーA放紙バルブ×(設放バルブ+新聞放紙パルブ)	プランク	7. 4	1 0 0
突鹿例 2 1		I - 3 × H - 1	<b>#-2</b> -(20.0)	A-2 - (270)
对旗物	晒クフフトバルブ×( v )	プランク	6. 8	100
<b>兴施例22</b>	•	1 - 3 × f - 1	· 2 - (17.3)	₩-2 - (255)
对 州 州	アスペスト × 皮ボール故紙パルブ	ブランク	1 6. 5	100
吳施例23		1 - 3 × f - 3	1 4. 6	2 2 4

**\* - 1** 

設ポール取紙パルプと新聞放紙パルプを 1:1で組合調整したパルプ。 ※-2 - ( ) は、その数値に達したときに、畝陽内糾離を生じて、 砂合せ部は剁離を生じなかつたことを示す、従つて、紙層間 剁離の測定は完胎出来なかつた。

特別 昭52-42988(9)

5. 添付書類の目録

1. 明 1 通 1 通 教主通 2. 委任状况2000年2000年 設設証券及びその例文 1 2 国籍及び法人証明書並がほされらの訳文

6. 前記以外の発明者、特所出題人または代理人

自 明 者 カンシの ホリキリ 住 所 東京部島部区掘切 8丁目3番4号 2 2 2 4 氏 名 SCOOL!

ウラワ 太イブッサルワ 在 所 埼玉県 浦和市大学 宗和 6 3 音 2 号 1 - 5 0 3 氏 名 田 原 敏 弘

10004 (2) 特許出額人 住 麻 

(3)代 蹇 住 所 東京都港区赤坂1丁目9番15号 日本自転車会館 氏 名(6314) 并继士 梨 硝 秀

1)、明確書塔12頁8行目化、「ポリエテレン イミン」とある前に、

r アクリルアミド・ジアリルアミン共重合

「体及びその回殺化物、 」

と加入する。

2) 明細書第18页7行目に、「各枚の」とあ るを、

『 各2枚の 』

と町正する。

**昭和50年11月6 日** 

特許庁長官 斉 母 英 雄

台1通 8 1. 事件の表示

昭和50年特許順第117165号

2. 発明の名称

抄付せ紙の製法

3. 補正をする者

事件との異係 新 東京都中央区京橋三丁目 8 希地 ハマノ工製株式会社 (氏 名)

4.代 壅 〒 107

> 名(607年) 介理士 小田 島 Æ Æ ま(6314) 弁理士

5. 補正命令の日付

明祖帝の「大明の別祖本は明・の国

7. 補正の内容

# This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

# BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:
☐ BLACK BORDERS
☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
FADED TEXT OR DRAWING
☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
OTHER:

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.